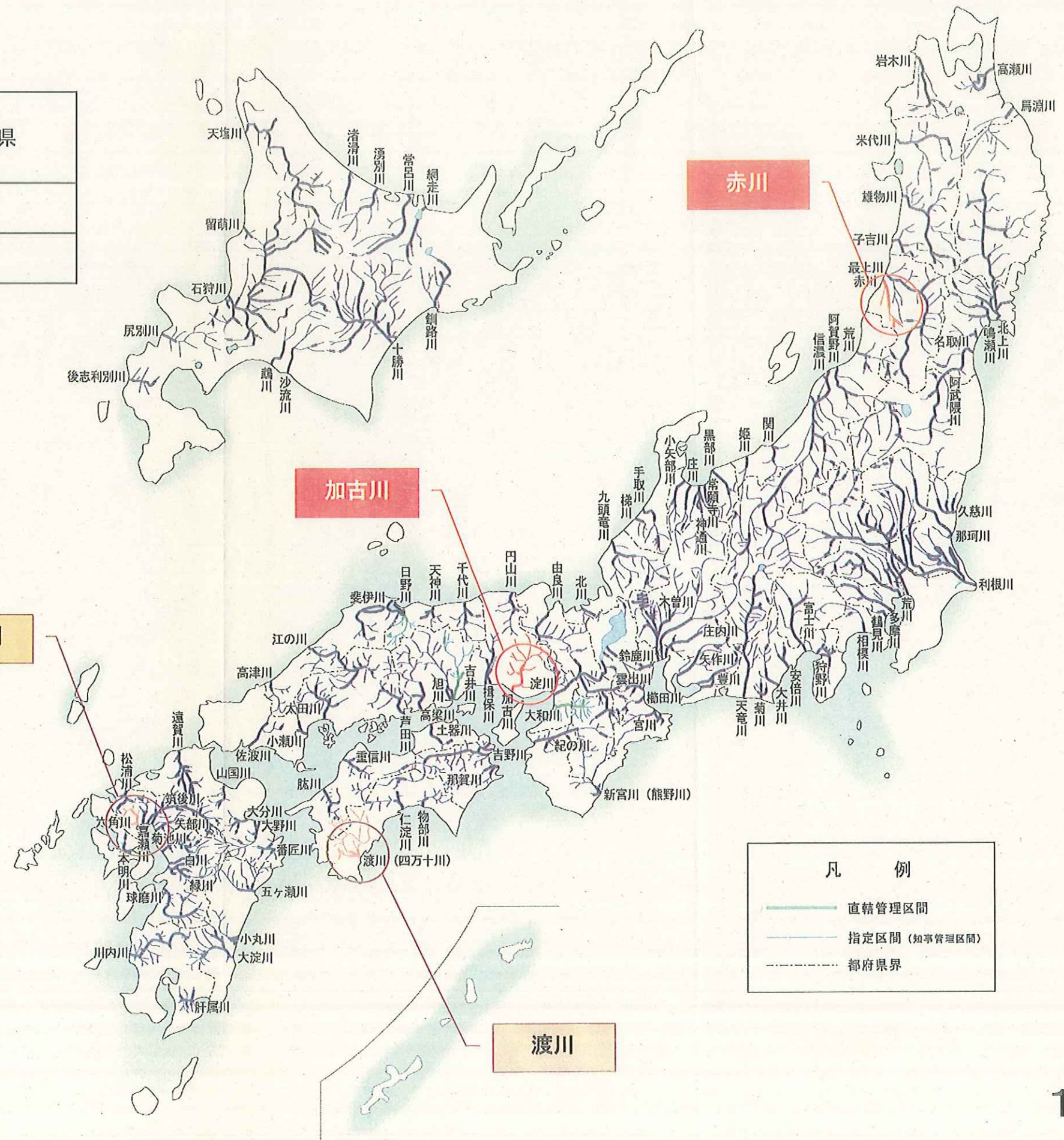


各水系の河川整備基本方針（案）の概要

資料 1

本日の河川分科会での審議水系

水系名	流域面積 (km ²)	幹川流路 延長 (km)	流域内 人口 (千人)	想定氾濫 区域内 人口 (千人)	流域の主な県
赤川	857	70	109	121	山形県
加古川	1,730	96	598	209	兵庫県

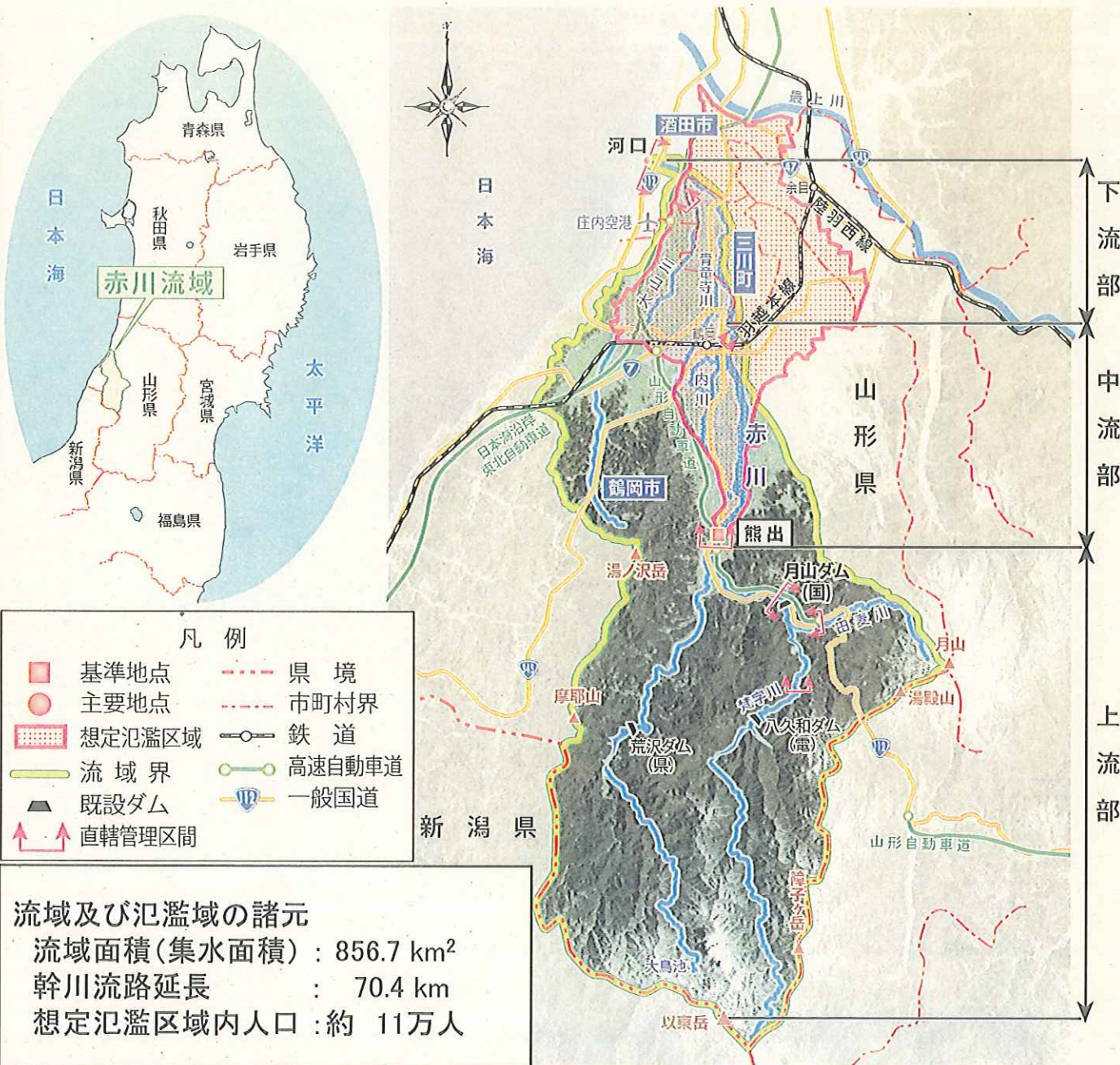


	本日の河川分科会での審議水系	2水系
	基本方針検討小委員会で審議中の水系	2水系
	河川整備基本方針策定済み水系 (手続き中を含む)	102水系

赤川水系河川整備基本方針（案）の概要

流域及び河川の概要

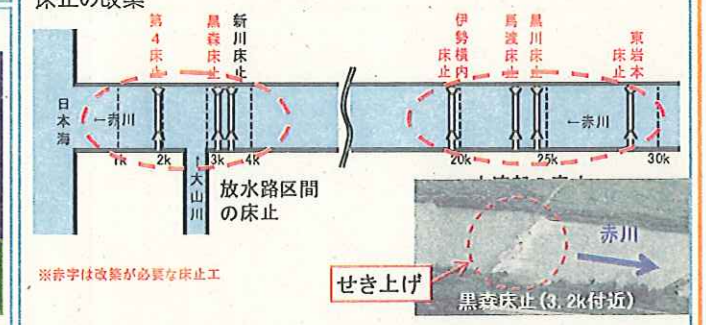
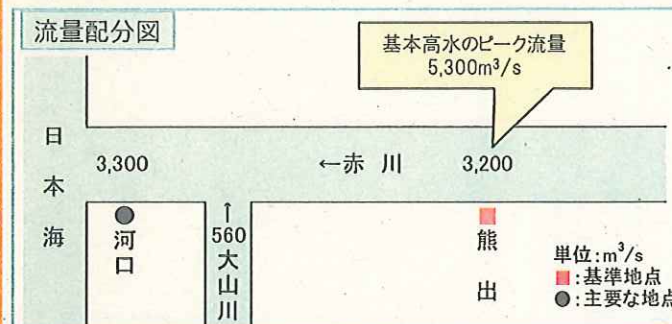
- 年平均降水量は平野部で約2,000mm、上流の山間部では約3,000mmに達する。山地部は冬期に降雪が多く、東北有数の豪雪地帯
- 上流部は、月山等の火山噴出物が広く堆積した脆弱な地質であるため、地滑りや山腹崩壊等が発生しやすい
- 中流部から扇状地が開け、庄内平野を貫流。海岸沿いには庄内砂丘が広がる



災害の発生防止又は軽減

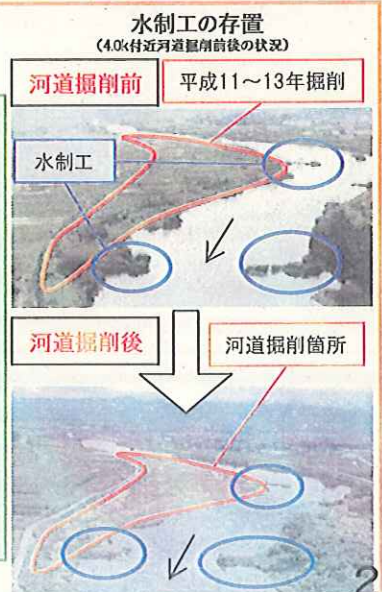
- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、雨量データによる確率からの検討、既往洪水による検討、1/100確率規模モデル降雨波形による検討等により総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点 熊出で 5,300m³/sと設定。

- 洪水調節については、効果的な洪水調節の実施等、既設洪水調節施設の治水機能の向上により対応
- 堤防の新設・拡築、河道掘削、床止の改築及び樹木伐開等を行い、河積を増大させるとともに、水衝部等には護岸等を整備
- 砂防施設は、ダム貯水池での堆砂や河道での河床の変化等を見ながら、土砂流出の抑制・調節を行う。河道では、河道掘削等による樹林化した砂州の再生・河床の動的平衡の確保等を図る。さらに、河床の変化や土砂移動のモニタリング結果に応じて、ダムでの堆砂対策、河床安定化対策に加え、水制工による河道維持や良好な河川環境の保全方策等を検討し、河道の著しい浸食や堆積のないような河道の維持に努める



河川環境の整備と保全

- 上流部では、イワナ、ヤマメ等の生息・繁殖場となっている渓流環境の保全に努める
- 中流部では、多様な流れの形成によりアユ等の生息・繁殖場となっている瀬・淵の保全、タコノアシ等の植物重要種の保全・復元に努める。外来種であるハリエンジュの伐開や礫河原の再生・保全に努める
- 下流部では、水制工を存置し、ジュズカケハゼ等の生息場となっているワンドの保全、タコノアシ等の植物重要種の保全・復元に努める
- 河口部では、汽水域に生息するカマキリ(魚類)等の生息環境の保全、コマツナギ等の植物重要種の保全・復元に努める



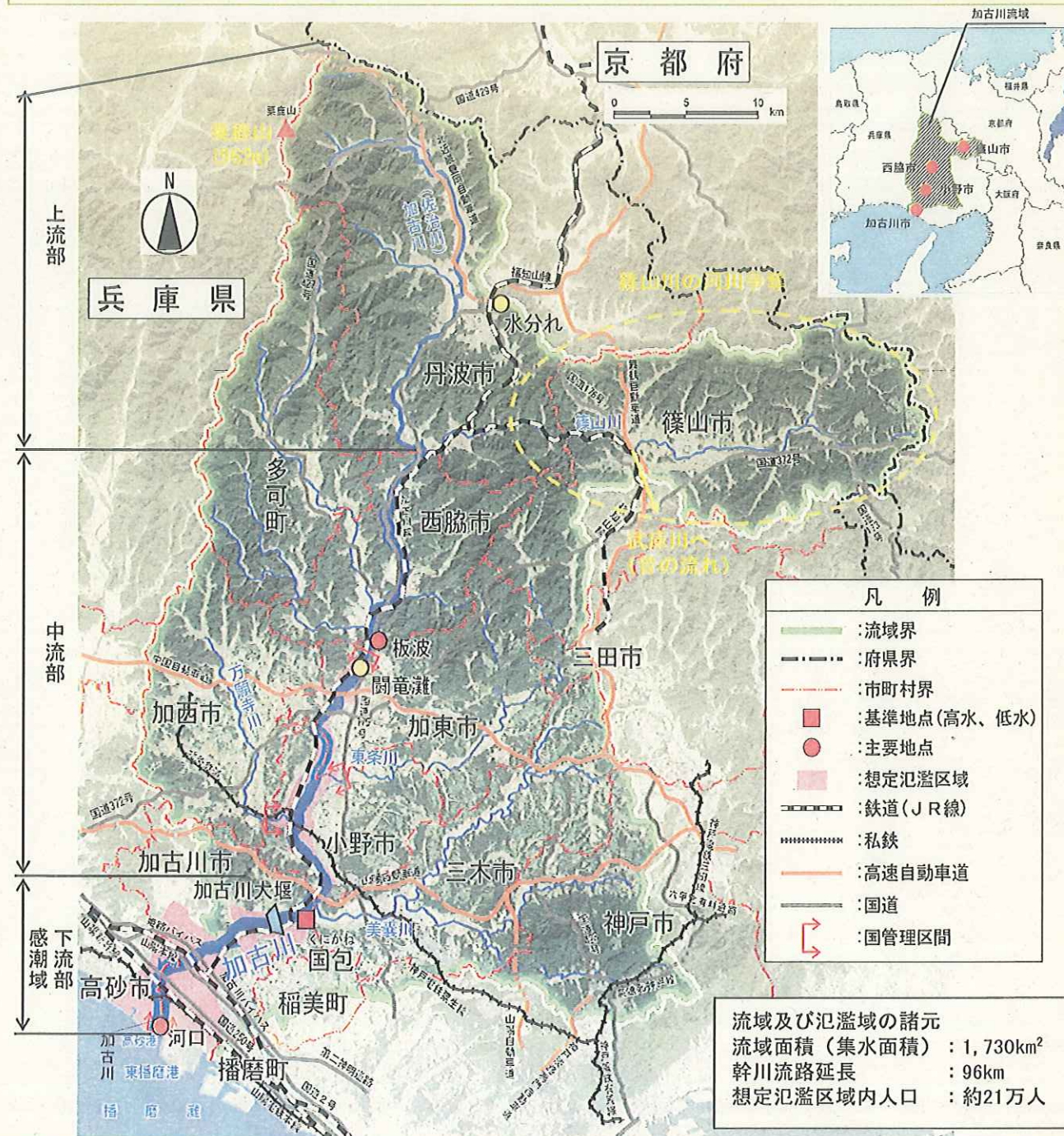
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する
- 熊出地点の流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、5月~8月を概ね3m³/s、9月~4月を概ね5m³/sとする

加古川水系河川整備基本方針（案）の概要

流域及び河川の概要

- 播磨臨海工業地帯の拠点として発展し、中・下流部に人口・資産が集積しており、ひとたび氾濫すると甚大な被害が発生
- 由良川流域との中央分水嶺は、標高が95mと全国一低い
- 年平均降水量は上流部が約1,600mm、中・下流部が約1,200mmと少なく、加古川流域にはため池が多数存在



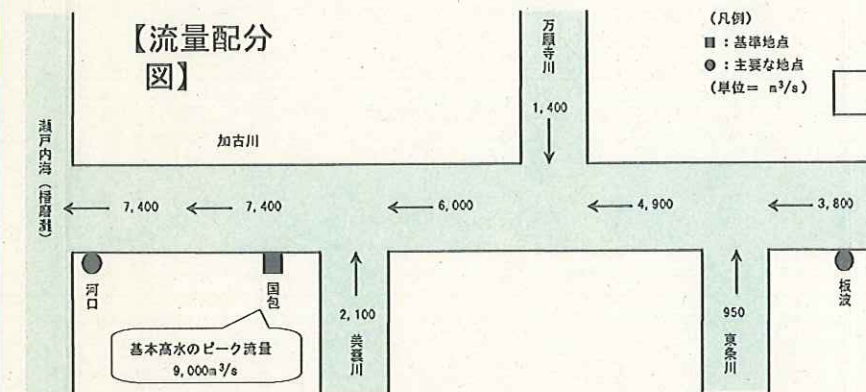
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める
- 国包地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、しらかき期おおむね9m³/s、その他の期間おおむね7m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利用、河川環境の保全等に資するものとする

災害の発生防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討等により総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点国包で9,000m³/sと設定

- 洪水調節については、洪水調節施設の整備により対応
- 河口部の干潟や中・上流部の露岩等に代表される加古川の豊かな河川環境・景観に十分配慮しながら、堤防の新設・拡築、河道掘削により河積を増大
- 洪水の安全な流下、河床の安定を図るため、河口部や支川の合流部等の流れの複雑な箇所については、継続的な調査、適切な維持管理を実施
- 特に流れの複雑な関竜灘においては、洪水時の水位の縦断的变化等について継続的な調査を実施し、その結果を反映した河川整備について検討を行う



関竜灘



固定堰等の改築



河川環境の整備と保全

- 上流域では、オオサンショウウオの生息・繁殖環境となっている溪流、オヤニラミ等の生息・繁殖環境となっている水際植生等の保全に努める。
- 中流域では、アブラボテ、イチモンジタナゴ等の生息・繁殖環境となっている水際植生、ワンド・たまり等の保全・復元に努める。
- 下流域では、オオヨシキリやジュウサンホシテントウ等の生息・繁殖環境となっている水際植生等の保全・復元に努める。
- 感潮域では、エドハゼ、クボハゼ等の魚類、ヒロクチカノコガイ、ハクセンシオマネキ等の底生動物の重要な生息・繁殖環境となっている干潟やヨシ群落、アイアシ群落等の塩沼植物群落の保全・復元に努める。



河口部の塩沼植物群落 (兵庫県RDB：Aランク)

